

旅行取扱状況の概観 (平成 19 年 10 月分)

海外団体旅行では、学生団体は前月に続いて好調に推移したが一般団体が大きく前年実績を下回ったため、合計では前年実績を大幅に下回った。海外企画旅行は、ホリデイの取り扱いが回復せず依然として前年割れの状況で 7 ヶ月連続の前年比マイナス。海外個人旅行は、海外航空券の取り扱いが好調に推移したため、3 ヶ月連続の前年比プラスと好調を継続した。海外旅行合計は、団体旅行の不振、企画旅行の低調により、前年比 97.0%と前月に続いての前年比マイナスとなった。

国内団体旅行では、一般団体は前月の好調から一転して落ち込み前年実績に届かなかったが、学生団体が取り扱いを伸ばし前年実績を大きく上回ったため、合計では 6 ヶ月連続の前年比プラスと堅調に推移した。国内企画旅行は、好調に推移していたメイトが急落し前年実績を割り込んだため、5 ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。国内個人旅行では、主力商品の航空券は前年並み実績を確保したが、JR 券、宿泊券の取り扱いが低調で、合計では前年実績に達せず 5 ヶ月連続の前年実績割れと低迷している。国内旅行合計は、企画旅行、個人旅行の低調が響き、前年比 98.8%と落ち込み 4 ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

外国人旅行は、団体の取り扱いが好調で、前年比 129.4%と 4 ヶ月連続の前年比プラスと好調に推移した。

この結果、10月の総取扱額は前年比 98.4%と前年実績を下回り、3 ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、前月同様に取り扱い件数・大型団体の取り扱い減少により、前年実績を大きく下回ったが、学生団体は、修学旅行、修学旅行外の取り扱いが共に好調で、前年実績を大きく超えた。団体の方面別取り扱いでは、近場の韓国、台湾、香港が目立った程度。

(2) 企画旅行

ホリデイの取扱いは、取扱額前年比 96.2%、取扱人数前年比 94.8%と共に前年実績に届かず、取扱額は 7 ヶ月連続の前年比マイナスと不振が続いている。ホリデイの方面別取り扱いでは、近場の韓国、台湾、グアムが好調であったがロングポジションは押しなべて不振であった。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、イベント関係の取扱いは堅調であったが、その他団体の取扱件数が減少し、6 ヶ月ぶりに前年実績を下回る結果に終わった。一方、学生団体は修学旅行の取り扱いが増加し、前年実績を大きく上回った。

(2) 企画旅行

メイトは、取扱額で前年比 96.0%、取扱人数で前年比 92.6%と、取り扱いが鈍化し前年実績を下回る結果に終わり、5 ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。商品別の状況では、九州、沖縄、関西地区商品は前年をオーバーしたが、近場商品は伸びがなく取り扱い低調であった。